

2. 地 質

西南日本における地体構造線である中央構造線は、本県のほぼ中央部を東西に貫通している。このため本県は地質構造上南北の二部分に分かれ、それぞれ西南日本の外帯（南部山地）、内帯（北部低地）に属している。これらの両地帯を構成する諸岩層はさらに古期、新期の二種類に分けることができる。したがって、本県の地質は基本的には北大和（内帯）、中央帯、南大和（外帯）に三大別され各部分には古期岩層と、新期岩層とがあるので、結局六つの単元に分けられることになる。（参考文献：堀井甚一郎著「奈良県地誌」）